

2024年4月10日

株式会社

各位

2025年春(令和7年度)入試用 都立高校入試 推薦合格のめやすと中学学区に関して

平素は大変お世話になっております。

表題の件、高校受験コースの受け入れにあたって、諸般の厳しい都立高校受験情勢を鑑み、**通学先公立(区立・市立)中学校の得点偏差と素内申(5教科合計)の格差**があることなどから、コース指導にあたっては旧学区上位校の推薦入試を目指す中学生および保護者については個別のご案内を実施する必要が出てまいりました。

以下ご参照の上、各教室での進路指導だけでなく、**通学先の公立中学校の学区替え**も視野に入れた都立高校受験対策が必要である旨をお伝えください。

■概要

・5教科素内申43以上が必要な都立高校への推薦受験を希望する生徒および保護者については、**通学先の公立中学校の素内申の傾向を踏まえて**、推薦受験を狙う都立高校の水準を切り下げるよう**推奨**すること

・上位校の推薦入試をどうしても目指したいが、通学先の公立中学校の素内申の傾向が著しく低い場合は、**学区替え**や、内申条件の緩い東京都支部・西側への**中学2年生(8年生)第一学期までの転校**も視野に入れる必要があることも説明すること

・推薦入試では、観点別学習状況の評価(全27観点)または素内申・評定(9教科)のどちらか一つを調査書点として点数化する形を取っているが、素内申の配分割合が高い上位校は中学3年生(9年生)第一学期の素内申でほぼ合格が決まるため、都立高校の推薦入試を早期に私立高校他への切り替えをする場合は**6月末までに生徒および保護者に面談で直接周知**すること

■学区別の上位校合格評点(60%以上、9教科:素内申合計45点)

素内申満点45点のうち、**上位校の素内申は暗黙的な条件となっている合計点をクリア**することが最低限の条件になっており、集団討論および当日試験の点数・評点が乗っても入学希望者が多く倍率が高いことから上位校の合格率8割達成は困難であると言える。

したがって、素内申を45点に近づけられる日々の学習だけでなく、素内申を取れる公立中学校の方が有利である。

・旧1学区

日比谷 45

三田 43

小山台 43

・旧2学区

青山 44

戸山 44

駒場 42

・旧3学区

西 45

・旧4学区

竹早 43

北園 41

・旧5学区

上野 40

・旧6学区

小松川 43

城東 42

・旧7学区

八王子 44

日野台 41

町田 41

・旧8学区

立川 44
昭和 41

・旧9学区

武蔵野北 42
小金井北 40

・旧10学区

国立 45

■都立高校推薦有利の中学と不利の中学に通う生徒への指導について

東京都下の公立(区立・私立)中学校での評点分布は公表されており、あくまで絶対的な評点による内申という建前にはなっているものの、実際には**学校側の教育・指導方針や、校長以下教職員の心情的な評価で加点、あるいは減点されることは普遍的にある。**

一方、都立系模試(Wもぎ・新教育、Vもぎ・進学研究会)の学校別得点分布で見ても一目瞭然の通り、そもそも**高い学力を持つ生徒が多数通う港区、世田谷区、文京区などは、内申のばらつきで不利なことに加え、優秀な生徒が多くても低い評点となり内申も下げられてしまう。**

これは、どちらの模擬試験で見ても、都内の全中学生の中でも受験した生徒の**平均偏差値が63を上回る港区立中学校があるにもかかわらず、素内申で30点台にされてしまう生徒がいる異常な状態である**と言える。したがって、都立高校上位校の推薦入試を目指すならば、これらの極めて不利な区立中学校で低い素内申をつけられると推薦入試そのものが受けられない。

一方、模試受験者の平均が45を下回る日野市、昭島市、西東京市、東村山市では、素内申42以上の複数の生徒が毎年上位校推薦入試で合格を勝ち取っている。そのうち、素内申の問題から港区や世田谷区から引っ越しをして**中学2年生(8年生)で編入した生徒が半数を占める。**

生徒指導においては、どうしても都立上位校を推薦入試したいと考える生徒・保護者には、上記のような状況もよく理解していただいたうえで、望む高校への進学をサポートできるよう面談をしていただきたい。

以上

2024年4月10日

株式会社

各位

2025年春(令和7年度)入試用 都立高校入試 推薦合格のめやすと中学学区に関して

平素は大変お世話になっております。

表題の件、高校受験コースの受け入れにあたって、諸般の厳しい都立高校受験情勢を鑑み、**通学先公立(区立・市立)中学校の得点偏差と素内申(5教科合計)の格差**があることなどから、コース指導にあたっては旧学区上位校の推薦入試を目指す中学生および保護者については個別のご案内を実施する必要が出てまいりました。

以下ご参照の上、各教室での進路指導だけでなく、**通学先の公立中学校の学区替え**も視野に入れた都立高校受験対策が必要である旨をお伝えください。

■概要

・5教科素内申43以上が必要な都立高校への推薦受験を希望する生徒および保護者については、**通学先の公立中学校の素内申の傾向を踏まえて**、推薦受験を狙う都立高校の水準を切り下げるよう**推奨**すること

・上位校の推薦入試をどうしても目指したいが、通学先の公立中学校の素内申の傾向が著しく低い場合は、**学区替え**や、内申条件の緩い東京都支部・西側への**中学2年生(8年生)第一学期までの転校**も視野に入れる必要があることも説明すること

・推薦入試では、観点別学習状況の評価(全27観点)または素内申・評定(9教科)のどちらか一つを調査書点として点数化する形を取っているが、素内申の配分割合が高い上位校は中学3年生(9年生)第一学期の素内申でほぼ合格が決まるため、都立高校の推薦入試を早期に私立高校他への切り替えをする場合は**6月末までに生徒および保護者に面談で直接周知**すること

■学区別の上位校合格評点(60%以上、9教科:素内申合計45点)

素内申満点45点のうち、**上位校の素内申は暗黙的な条件となっている合計点をクリア**することが最低限の条件になっており、集団討論および当日試験の点数・評点が乗っても入学希望者が多く倍率が高いことから上位校の合格率8割達成は困難であると言える。

したがって、素内申を45点に近づけられる日々の学習だけでなく、素内申を取れる公立中学校の方が有利である。

・旧1学区

日比谷 45

三田 43

小山台 43

・旧2学区

青山 44

戸山 44

駒場 42

・旧3学区

西 45

・旧4学区

竹早 43

北園 41

・旧5学区

上野 40

・旧6学区

小松川 43

城東 42

・旧7学区

八王子 44

日野台 41

町田 41

・旧8学区

立川 44
昭和 41

・旧9学区

武蔵野北 42
小金井北 40

・旧10学区

国立 45

■都立高校推薦有利の中学と不利の中学に通う生徒への指導について

東京都下の公立(区立・私立)中学校での評点分布は公表されており、あくまで絶対的な評点による内申という建前にはなっているものの、実際には**学校側の教育・指導方針や、校長以下教職員の心情的な評価で加点、あるいは減点されることは普遍的にある。**

一方、都立系模試(Wもぎ・新教育、Vもぎ・進学研究会)の学校別得点分布で見ても一目瞭然の通り、そもそも**高い学力を持つ生徒が多数通う港区、世田谷区、文京区などは、内申のばらつきで不利なことに加え、優秀な生徒が多くても低い評点となり内申も下げられてしまう。**

これは、どちらの模擬試験で見ても、都内の全中学生の中でも受験した生徒の**平均偏差値が63を上回る港区立中学校があるにもかかわらず、素内申で30点台にされてしまう生徒がいる異常な状態**であると言える。したがって、都立高校上位校の推薦入試を目指すならば、これらの極めて不利な区立中学校で低い素内申をつけられると推薦入試そのものが受けられない。

一方、模試受験者の平均が45を下回る日野市、昭島市、西東京市、東村山市では、素内申42以上の複数の生徒が毎年上位校推薦入試で合格を勝ち取っている。そのうち、素内申の問題から港区や世田谷区から引っ越しをして**中学2年生(8年生)で編入した生徒が半数を占める。**

生徒指導においては、どうしても都立上位校を推薦入試したいと考える生徒・保護者には、上記のような状況もよく理解していただいたうえで、望む高校への進学をサポートできるよう面談をしていただきたい。

以上